

## 極限軽量缶への挑戦



### CBR技術を活かした究極の軽量缶



東洋製罐が新たに開発した缶底耐圧強度向上技術CBR（Compression Bottom Reform）によりアルミ缶の超軽量化が可能になりました。

一般的な缶底耐圧強度向上技術よりも遥かに強度向上が見込めるCBR技術によって缶底部の大幅な薄肉化が可能となります。それと共にaTULCの突き刺し強度優位性を活かした缶胴部の薄肉化を組み合わせることにより、究極の軽量缶の実現に挑戦します。これによりアルミニウム材料の使用量削減に伴う温室効果ガス排出量を低減し、さらにaTULCは製缶時に水を使用しないシステムであるために、環境に対して大きな効果を発揮します。

国際的にも注目を集めており、国際的な祭典、The Canmaker Magazine Cans of the Year Awards 2020でプロトタイプ部門 金賞を受賞しました。



アルミ使用量20%削減（軽量：11.0g→8.8g）